

**「脱プラスチック肥料の開発・普及に向けた連携協定」を、
岐阜県飛騨市、JAひだ、サンアグロの3者で締結。**



連携協定の締結式で協定書を交わした、都竹 飛騨市長（右から2番目）、思田 JAひだ組合長（右から3番目）、協力農業者代表 田中様（一番左）、サンアグロ社長 高橋（一番右）。

2025年3月12日、岐阜県飛騨市役所にて、飛騨市・JAひだ・サンアグロ(株)の3者による「脱プラスチック肥料の開発・普及に向けた連携協定」の連携協定式が行われました。

同協定は、飛騨市の農業現場において、当社製品「硫黄被覆肥料」を普及することにより、豊かな自然と農地を後世に残し、持続可能な農業を実現する取り組みです。

3者の役割として、サンアグロは硫黄被覆肥料を用いた脱プラスチック水稲用一発肥料の提供、JAひだは脱プラスチック肥料の評価と生産現場への円滑な流通、飛騨市は実証実験への協力と脱プラスチック農業についての情報発信を担います。

実証実験には、タカヤマモチについては市内の水稲農業者5団体、コシヒカリについては同じく3団体が協力する予定です。

連携協定式には、飛騨市長 都竹淳也様、JAひだ代表理事組合長の志田浩一様、当社の高橋健社長が出席し、協定書にサインを交わしました。

都竹市長は「3者でこうした前向きな取り組みを始められるのは、大変すばらしく、全国的にも珍しい画期的なこと。海のない、山間の小さなまちがマイクロプラスチックの問題、環境保全に少しでも貢献し、取り組みの発信をしていくことは意義があることと感じています」などと挨拶されました。

JAひだの志田組合長は「農家さんや組合員さんの所得の向上と環境保全を、矛盾することなく、両方を進めていかなければなりません。飛騨全域の農家さんにもお伝えして進めていきたい」と意気込みを述べられました。

また、当社高橋社長は「私たちにとっては初めての取り組みで大変意義深く思っております。この取り組みを通じて地域農業の持続可能性を高め、将来にわたり安心して暮らせる地域づくりに貢献していきます」と述べました。

協力する農業者を代表して出席した(有)エイドスタッフ代表理事の田中一男様は、「プラスチックの廃殻に最初はびっくりしましたが、2～3年経つと慣れてしまっていて使い続けてきたというのが正直なところ。最近になって硫黄被覆肥料も価格差が無くなってきたので、こちらへという流れになるのは自然なことだと思います」と話されました。

サンアグロは、2022年に全国農業協同組合連合会・全国複合肥料工業会・肥料アンモニア協会が発表したロードマップ「2030年にはプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業に」に基づき、引き続き、「硫黄被覆肥料」製品の開発・普及に取り組んでいきます。

硫黄被覆肥料のしくみや
特徴を紹介しています

PICKUP 硫黄被覆肥料

当社のマイクロプラスチック問題への
取り組みを紹介しています

PICKUP 海洋プラスチック問題

本件に関するお問い合わせは、下記リンク先よりご連絡ください。

 お問い合わせ